

サクラフシアブラムシ (別名 ササキコブアブラムシ)

サクラの葉表に長さ2~3cmの細長いコブをつくる。コブは春は赤いが、夏以降は枯れて茶色になる。春はコブの中に小さなアブラムシが群居している。

よく目に付くが、木の成長に影響するほど多発した例は知られていない。防除は普通必要とされない。



1. 虫えい。1986/5。美唄市，エゾヤマザクラ。

【学名】 *Tuberocephalus sasakii* 【分類】 カメムシ目 (Hemiptera) , アブラムシ科 (Aphididae)

【分布】 北海道，本州；千島，中国。

【生態】

枝上に産みつけられた卵で越冬する。早春，新芽の頃に幼虫が孵化し，葉裏に移って吸汁する。その刺激により虫えい（虫コブ）が形成される。虫えいの中で繁殖し，晩春になると翅（はね）のある雌成虫が脱出し，ヨモギに移住する。

ヨモギの葉裏で過ごした後，秋にサクラに帰ってくる。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

サクラフシアブラムシ abura/sakurafu/kaisetu.htm

「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，2001/8/7.

kobu.JPG

「写真1」 鈴木重孝，北海道立林業試験場，1986.